

杉溪八橋 すぎたにやち 書家、畫家、漢詩人。慶應元年閏五月十二日京都生れ、昭和十九年十月二十日歿（八六五—一九四四）。講言長、字信卿、あは子（土）久、幼名桓丸。別號六橋漁叟、深柳堂、蠟蟻道人。堂上八家山科とみやけ言端の二男、明治二年改姓。男爵、貴族院議員。書を遠山蘆山公、畫を重春塘公、詩を林雙橋、神田香巖公學んだ。「二條八公神道碑」、
「岩倉八公神道碑」の淨書を擔ふ。昭和十四年興亞書道聯盟盟理専兼總務就任。篆刻ひと長じ、詩書畫に絶頂の最後といふ。

漢詩集 『美人百態』（内題「美人百態詩」昭和十四年二月二十五日私家版）、『平安線詩』（昭和十六年十一月二十日私家版）等。『六橋畧蹟』杉溪言長歿後五十年』（平成五年十月序、杉溪一言刊）あり。

